



Academy for
Global
Leadership

AGL グローバルリーダー教育院

人文社会系 山田道場
〈オープン道場〉

2013年後期 Schedule & Outline
(ver5.0.1)

道場主 山田圭介 (特任教授) :yamada.k.be@m.titech.ac.jp
@大岡山キャンパス南6号館3F S6-309B



本学学生のみなさんへ

- 今期（Oct/2013-Mar/2014）も、グローバルリーダー教育院山田道場の道場MENUへの参加者を、所属学生以外の学生から募集します。
- 本資料に掲載している全ての道場で、参加者を募集します。
- 昨期（Apr-Sep/2013）は、のべ97人の皆さんに出席頂きました。1道場につき平均で4-5名のAGL非所属の学生諸君が、AGL所属生とともに道場に参加頂いた事になります。
- 自分の価値を上げる事に興味がある、感度の高い、本学大学院生及び本学学部3年生・4年生を対象とします。1回だけでも何回でも構いません。
- 殆どの道場は、ワークショップまたはレクチャーをベースにした議論を行う「対話型」です。積極的な議論への参加をお願いします。
- 「道場」は少人数制が基本ですので、大人数となった場合はお断りする事があります。
- 対象とする「道場」の2週間前までには、AGL事務室（担当：土屋: agl.jim@agl.titech.ac.jp）または当方までご連絡ください。
- オープン道場の日時・場所は、直前に変更がある場合があります。スケジュールは日々更新しますので、AGL HPを常にチェック頂き、出席前に必ず、AGL事務室または当方まで確認してください。

皆さんの、積極的な参加を期待します。

東京工業大学グローバルリーダー教育院（AGL）
特任教授・道場主 山田 圭介

Email: yamada.k.be@m.titech.ac.jp

Facebook: <https://www.facebook.com/keisuke.yamada.5203>



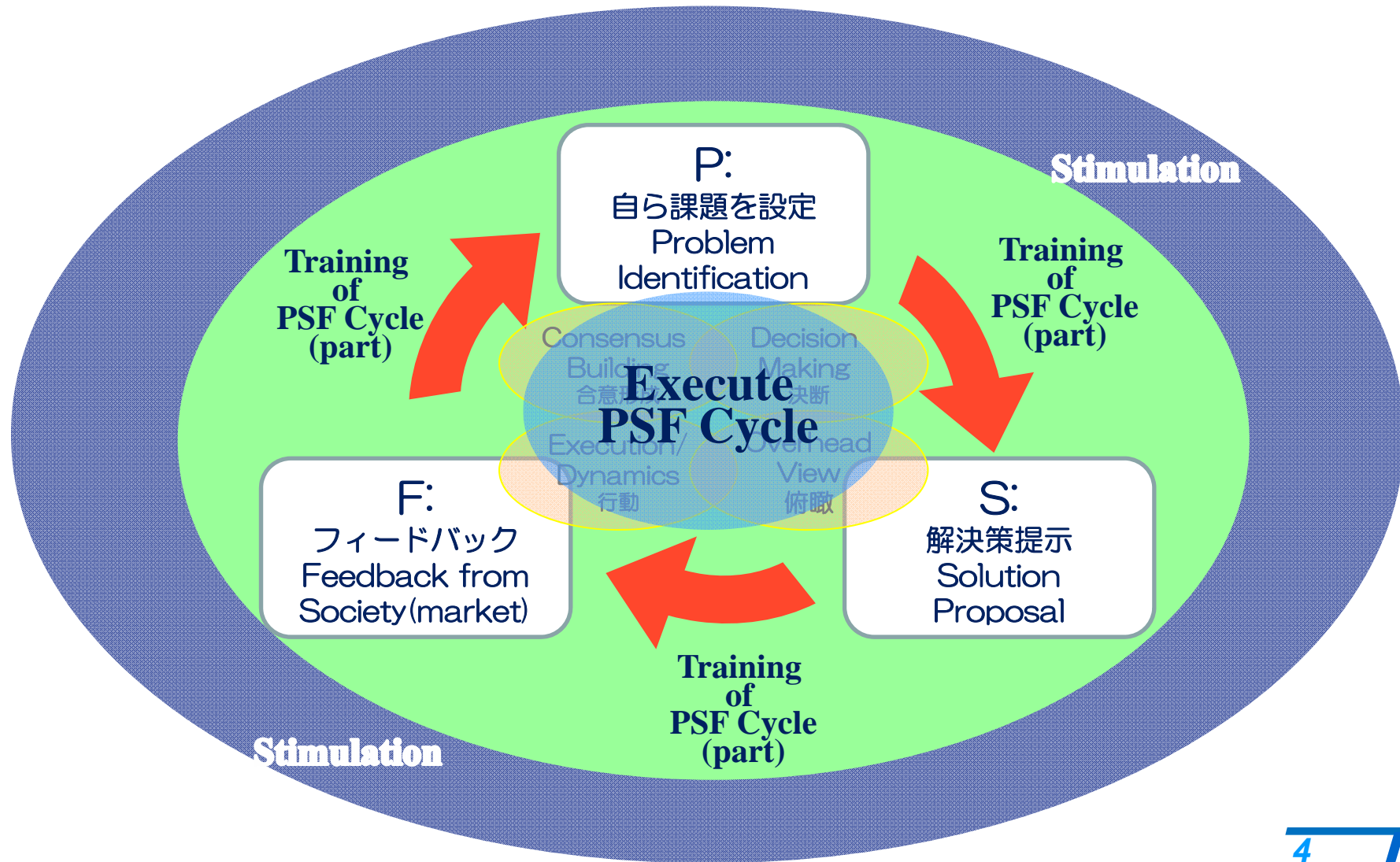
社会にブレークスルーをもたらすようなイノベーションの創出を担い、新たな成長分野をデザイン・設定し、人類社会の発展に貢献する

To contribute progress to the mankind by designing, developing and executing emerging fields/markets with innovative solutions which provide “breakthrough” with society.

- GLOBAL : 競合に耐えうる個人の価値 / *value and skills to compete with talented persons in all over the world*
- LEADERSHIP : 社会（市場）をニーズを構成するインサイトを理解し、ソリューションを提示し行動する個人の機能 / *functions of understanding “insight” to form “needs” of society and to present and execute solutions created*



<To Execute and iterate PSF Cycle>



今期の山田道場MENU全体の構成(2013Oct-2014Mar)

テーマ：“Future & Diversification”



Academy for
Global
Leadership

| | | |
|--|--|---|
| Fundamentals for discussion | 【Lecture & Workshop】グローバルリーダーの為の 財務諸表と組織経営 x 3 馳雅樹(公認会計士・税理士) | 【Lecture & Discussion】リーガル&コンプライアンス 法的議論の進め方 x 2 皆川克正(皆川恵比寿法律事務所、弁護士) |
| Communication Skills | Language Workout Program (L-WoP) daily e-learning + workshops, English Conversation Training | |
| Stimulation - discussion with professionals | 【Panel Discussion】Strategic Investmentによる ベンチャー支援とOpen Innovation Akira Kurabayashi, Director, salesforce.com | 【Lecture & Discussion】オリエンタルランドのCSR; 江戸に学ぶところ 山口浩作(オリエンタルランドテーマパーク統括部) |
| | 【Lecture & Discussion】激動の時代のキャリア 開発 Dr. Koji Osawa, General Partner, Global Catalyst Partners | 【Lecture & Workshop】アジアの領土問題と安全保証 石山永一郎(共同通信社 編集委員・論説委員) |
| | 【Lecture & Discussion】Becoming a Bridge Person - Leading and Serving Across Culture x 3 Joseph Shaules Director - Japan Intercultural Institute | 【Lecture & Discussion】(仮)最先端生産技術による 事業回復 坂本秀行(日産自動車 執行役員). |
| Training for PSF Cycle (part) | 【Discussion & workshop】政策立案と作成(環境政策) 中野浩二(経済産業省) | |
| | 【Workshop】デザイン思考入門ワークショップ 柏野尊徳(デザイン思考研究所) | |
| | 【Workshop】未来洞察ワークショップ/10年後の社会をデザインする-アシスト機器のある 生活2025 栗田恵吾(博報堂イノベーションラボ)・栗林敦子(リコー経済研究所) | |
| Execute full PSF Cycle | | |



Academy for
Global
Leadership

2013後期道場MENU個別概要



〈Financial Statement Analysis and Management for Global Leaders〉

企業/NPO、官庁/NGP、大学、どの組織においても、財務の仕組みを理解する事は必要不可欠なものです。本道場では、演習・ワークショップ形式で財務諸表の読み方・仕組みをオリジナルの教材を使ってトレーニングします。財務諸表の専門知識を理解するのが目的ではなく、グローバルリーダーに必要な、実践的な財務感覚のセンスを磨くことを目的にしています。



今期（2013年後期）及び来期（2014年前期）の1年間で6回を予定していますが、今回3回だけでも、財務諸表の概要だけは理解できるように設計してあります。特に、来年4月より就職を予定されている方には、社会人として、必要最低限のセンスを身につける事ができます。

Guest Speaker: 馳 雅樹氏、公認会計士・税理士
 (株)青山パートナーズコンサルティング 代表パートナー
 アーサーアンダーセン（現あずさ監査法人）、大手会計事務所勤務をへて、
 1999年青山パートナーズ設立、代表取締役就任

〈今期（2013年後期）の予定〉

第1回 11/Oct @大岡山 財務諸表を読む（基礎編）；(How to read Financial Statements(F/S)?)

- 財務諸表の全体把握のポイント (Points for overall understanding about F/S.)

第2回 22/Nov@すすかけ台 財務諸表を読む（実践編(1)）；(How to read F/S?(practice (1))

- 基礎的な財務分析；Basic Financial Analysis

第3回 17/Jan@大岡山 財務諸表を読む（実践編(2)）；(How to read F/S?(practice (2)))

- キャッシュフローステートメントの仕組み・読み方）；Structure of Cash Flow Statements(C/F)

〈来期（2014年前期の予定）〉

第4回 財務諸表の作成プロセス；Process for making F/S

第5回 財務諸表の作成の基本ルールと作成の限界；Basic rules for making F/S and its limitation

第6回 財務諸表の役立ちと企業価値；Usage of F/S and Corporate Value



〈Legal & compliance; Training for legal discussion〉

1. 目的：

グローバルリーダーに求められるリーガル&コンプライアンスの基礎知識、法的議論の進め方の習得

2. ポイント：

今期（2013年後期）に2回、来期（2014年前期）に2回、の計4回で構成します。

企業、大学、官庁を問わず、すべての組織活動およびそのステークホルダーの権利・義務は、法を遵守することを根本としています。また、利害が対立する場合は、最終的には法に、その判断をゆだねる場合があります。本道場では、法律知識のガイダンス・講義ではなく、実際の場面で、どのように「法」を解釈し、利用していくのか、そして、その議論を、どのように進めていくのか、を、原告・被告、もしくは、対立する双方に分かれて、それぞれに立場でロジックを組み立てていくかを、ワークショップ形式で実践します。

All of activities made in “organizations” including enterprises, universities, and governmental bodies are being requested to be compliance with law as social entities. If there are collisions among stakeholders, they may request final solutions to the court. You are being requested to think and exercise how to understand the law related to the case, how to utilize it and how to proceed such discussion by building logic of each party, such as Plaintiff and Defendant in some case, or each party of such stakeholders in some case.



〈今期（2013後期）の予定〉

第1回 6/Dec@大岡山

憲法改正の議論（Discussion on Japanese Constitution/Case study of actual trial.）

第2回 30/Jan@大岡山

企業倫理（Compliance）

〈来期（2014前期）の予定〉

第3回 委託研究契約；Research Contract

第4回 ライセンス契約；License Agreement

Guest Speaker：皆川克正氏、弁護士（東京第1弁護士会）皆川恵比寿法律事務所 代表 三菱商事（株）を経て、2007年弁護士登録。

【Panel Discussion】 Strategic Investmentによる ベンチャー支援とOpen Innovation



<Investor's support to start-up company by strategic investment and open innovation>

<25/Oct(fri) 18:00-20:00@大岡山>

salesforce.com社/倉林氏は、昨年5月に当道場にお越し頂き、当時real timeで進行していたアカウントینگ・ソース・ジャパン社への出資機会について、salesforce社として出資すべきかどうかについて、皆さんに議論していただきました。

今回は、salesforce.comの概要、及び投資プログラムの紹介を行い、米国企業がStrategic Investmentを通じて如何にOpen Innovationを実現しているかを紹介します。また、実際に投資をしたケースとしてアカウントینگ・ソース・ジャパン社を取り上げ、その紹介と両社にとっての出資の意義や狙いについてディスカッションを行います。

主なアジェンダは下記の通り

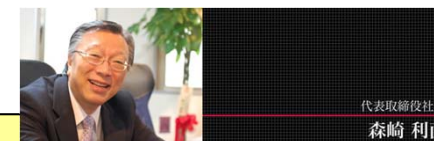
1. パネルディスカッション形式で、下記の順番で話をする：（前半）

- (1) 倉林：「salesforceの会社概要、投資の狙い、アカウントینگ・ソース・ジャパン社への出資の経緯」について簡単な説明
- (2) 森崎：「アカウントینگ・ソース・ジャパン社の概要、今後の狙い、投資家への期待」についての説明
- (3) 投資家の役割についてのディスカッション

2. 学生との質疑応答（後半）

Guest Speaker略歴: 倉林陽

富士通株式会社、三井物産株式会社にて国内及びシリコンバレーでのベンチャーキャピタル投資、及び投資先の事業開発業務に従事。Globespan Capital Partners(米国ベンチャーキャピタルファンド)を経て2011年5月にセールスフォース・ドットコムに入社。日本投資責任者として戦略投資を推進中。ペンシルバニア大学ウォートンスクール経営大学院(MBA)卒



Guest Speaker略歴: 森崎利直

1947年7月10日生。甲南大学経済学部卒業

日本オリベッティ入社後、NEC子会社を経て、1989年に株式会社日本デジタル研究所(略称JDL)に入社。取締役マーケティング本部長として会計事務所向けシステムの企画・開発を担当。その後、子会社のリージョナルエアライン、アイベックスエアラインズ株式会社代表取締役を経て、2009年6月、アカウントینگ・ソース・ジャパン株式会社を設立。

代表取締役に就任。現在に至る。株式会社日本デジタル研究所(JDL)では経営企画担当役員も兼務、アイベックスエアラインズ株式会社では7年連続赤字で債務超過の会社を2年目で単年度黒字化させた脅威の実績を持つ。

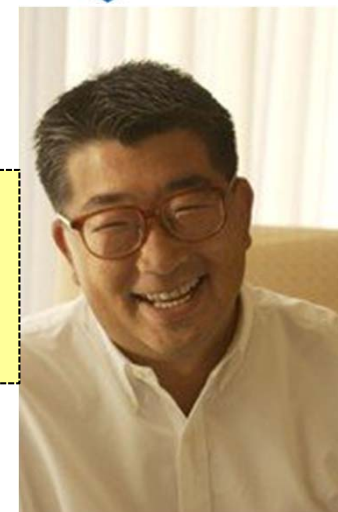


〈Carrier development for the students who have to survive in the era of turbulent times〉 (Japanrse and English)

<11/Nov(mon) 17:30-19:30@大岡山>

Guest Speaker : 大澤弘治氏、Founder & General Partner, Global Catalyst Partners

1985年三菱商事入社。1993-1999年同社パロアルト支社にて、シリコンバレーの半導体・通信・コンピュータ関連のベンチャーへの出資とビジネスデベロップメントに従事。1999年に、シリコンバレーにてVC設立。ジェネラルパートナー。慶応義塾大学理工学部卒。工学博士。



<Guest Speakerからのメッセージ:>

「アベノミックス 成長戦略」に希望の光を求め、崩壊直前の社会システム立て直しに懸命な今日の日本。個人レベルでは今後さらに厳しさの増す激動の時代と言えキャリアを如何に開発していくかは各自にとって大きな課題です。

そんな激動の時代を生き抜く為に、世界のイノベーションのメッカであるが故に非常に競争も厳しいシリコンバレーで、20年間に亘りビジネスを行いベンチャーキャピタルを創業するに至った自身の経験と、日々接するシリコンバレー起業家に共通する特性を紹介します。



<http://www.gc-partners.com/index.php>



〈Territorial disputes in Asian area and security〉

〈29/Nov(fri) 17:30-19:30@大岡山〉

Guest Speaker：石山永一郎氏、一般社団法人 共同通信社(<http://www.kyodonews.jp/>) 編集委員・論説委員

82年、共同通信社入社。宇都宮支局、名古屋支社を経て91-95年にマニラ支局長。1999-2001年にワシントン特派員。02年から編集委員として安全保障、在日米軍基地、人権、平和問題などを担当。11年、米国務省日本部長の差別発言報道で平和・協同ジャーナリスト基金賞。著書に「彼らは戦場に行った ルボ新・戦争と平和」「マニラ発ニッポン物語」、共著に「ペルー日本大使公邸人質事件」など。

〈Guest Speakerからのメッセージ：〉

日本が直接的に絡む未解決な領土問題は、北方領土、竹島、尖閣諸島の三つです。周辺のアジア地域では中国、フィリピンなど6カ国・地域が領有権を争う南沙諸島があります。この南沙諸島も第2次大戦前は日本が一時領有しており、歴史的に日本と無縁ではありません。

いずれの領土問題も歴史的背景や実効支配状況などが異なり、解決のために必要なアプローチや、近い将来における解決の現実性も違います。しかし、必ず「平和的解決」が可能な問題でもあります。世界の領土問題の解決例を参考にしながら、平和的解決の具体的道筋を考えたいと思います。

さらに「国境とは何か」「領土が国民にもたらす利益とは何か」という考察も試みたいと考えています。皆さんとお会いできるのが楽しみです。





<第1回：20/Dec(fri) 17:30-19:30@大岡山>
<第2回：24/Jan(fri) 17:30-19:00@大岡山>
<第3回：07/Feb(fri) 17:30-19:00@大岡山>

Guest Speaker : Mr. Joseph Shaules、元立教大学社会学部助教授で、NPO法人異文化教育研究所代表

NHK Eテレ「ニュースで英会話」講師でもあるJosepf Shaules先生による異文化コミュニケーションとグローバルリーダーシップについて、議論をする3回シリーズ。各回、先生より、テーマについてのLectureがあり、それについて、議論を行います（英語）。



Dec. 20th (Fri)

Servant Leadership Across Cultures

What kind of person is successful living and working in international environments? What leadership style works in any cultural environment? This lecture will present a leadership model for a global world. We will see leadership in a global setting is not about power and authority, but about bringing people together around shared goals and acting as a "bridge person".

Jan 24th (Fri)

The Intercultural Mind

What does it mean to have an "international mindset" or to "be international"? This lecture will discuss the "cognitive impact" of intercultural experiences. We will see that experiencing other cultural worlds has an impact on our "intuitive mind". Cognitive science is helping us understand just what it means to have an "intercultural mind" and how we can develop it to be more effective living global lifestyles.

Feb 7th (Fri)

Bridging Deep Culture Difference

Is cultural difference disappearing in a global world? How can we overcome cultural difference when working and living internationally? This lecture will introduce the "dilemma theory" approach to understanding cultural difference. We will learn a "deep culture grammar" that can help us analyze the cultural differences that we experience. We will learn that the key to overcoming misunderstandings that come from cultural difference is not by compromise, but by reconciliation.



<8/Nov(fri) 17:30-19:30@大岡山>

<CSR strategy of OLC, an operator of Tokyo Disney Land. Learning courtesy and mind made in EDO era in Japan.>

Guest Speaker：山口浩作氏、株式会社オリエンタルランド テーマパーク統括部 マネージャー
 1992年オリエンタルランド入社。TDSホテル計画部（ミラコスタ）、運営企画室（戦略/人事/教育）、NEPプロジェクト推進室（ディズニー地方展開検討）、経営戦略部を経て、現職。



<http://www.olc.co.jp/index.html>

<Guest Speakerからのメッセージ>

当日の構成は下記を考えています。

(1)前半 仮題『江戸に学ぶ「こころ」』 (2)後半 車座談議 1時間程テーマにとらわれずざっくばらんにフリースタイルで語り合えればと思います。

ビジネスとの接点ということで…学生さん達にはオリエンタルランドのホームページからCSRレポートに目を通してきて頂ければと思います。当日は「心」や「志」について考え、深め合う時間になればと思います。」

<31/Jan(fri) 17:30-19:30@すすかけ台>

<The main reason of recent business recovery was not caused by decline of yen value, was caused by the result of development of production technology.>

Guest Speaker：坂本秀行氏、日産自動車株式会社 常務執行役員（生産技術本部担当）
 1980年日産自動車入社 カルソニック（株）出向、車両技術本部を経て2000年ルノーブラジル社出向、2003年日産テクニカルセンターノースアメリカ会社出向。2005年日産自動車 第三車両開発本部、2008年同社執行役員。2009年Renault-Nissan Alliance Alliance Director。2012年常務執行役員。東京工業大学 機械工学科卒。



坂本常務執行役員には、2011年より当道場へ登場頂いており、今回で3年連続3回目です。また、AGLのアドバイザリーボードのメンバーもお引き受け頂いています。日産自動車の生産技術の総責任者として、文字通り、世界中を飛び回っておられる、同社でも「最も忙しい執行役員」のお一人です。今回は、最近の自動車業界の急速な業績回復の秘密に迫る予定です。ご期待ください。

〈Policy making about “climatic variation”〉

〈1/Nov(fri) 17:00-20:00@大岡山S422〉

Guest Speaker: 中野浩二: 経済産業省 産業技術環境局 地球環境連携・技術室 課長補佐
 2004年入省 自動車課、車両課を経て、2007年資源エネルギー庁資源燃料部政策課、2009年特許庁総務課、
 2010年米国カリフォルニア大学サンディエゴ校留学（国際関係）、2012年より現職。
 東京工業大学 分子生物学専攻修了（修士）

本道場で毎年行っている政策立案の集中ワークショップです。今期は、環境政策を皆さんに立案していただきます。「実質的に世界の温暖化対策に貢献し」、「我が国の経済的な損失を最小限に抑え、可能であれば我が国に裨益する形で」目標を達成できるためのツールをどのように設計するかを議論し、最良となる手段とその根拠を提示して頂きます。

今回取り上げるテーマは、「気候変動」です。このテーマでは、一般的には、1. 温暖化が本当に起こっているのか、2. 各国の目標、義務をどのように評価すべきか、3. 当該目標をどのように達成するのか、等レベルの異なる様々な視点がありますが、今回、は3.に関する政策策定を行います。

政策立案プロセス

政策課題

- 2020年、またそれ以降の「将来枠組み」を見据えた目標達成の道筋をいかに実現するか。!
- 特に、国内の既存の努力だけでは達成が難しい部分をどのように補完するのか。!
- 地球温暖化への貢献・我が国の国益の観点から、最適な選択肢は何か。!

政策オプション

| | | |
|---|--|-----------------------------------|
| A 京都メカニズム活用 | B 京都メカニズム修正 | C 新ルール作成 |
| 既存の制度を積極活用することで、調整コストを低減し、効率的な目標達成を目指す。 | 既存の制度を尊重しつつ、より使いやすいものになるよう、各国に制度改正を促す。 | 既存の制度に縛られず、我が国の実情・国益にかなう新制度を構築する。 |

ヒント

1. 現状認識・課題分析・それぞれのオプションのメリット・デメリットは？
2. プレイヤーと利害関係の対立はあるか？
3. 日本の強みとは？経済力？技術力？マンパワー？
4. 地球温暖化と国益は両立する？しない場合はどちらを優先する？
5. そもそも、与えられた情報で必要十分？考察に当たり、追加情報は必要？



United Nations
Framework Convention on
Climate Change



〈Workshop for Design Thinking for beginners〉 (Japanese & English)

デザイン思考とは？

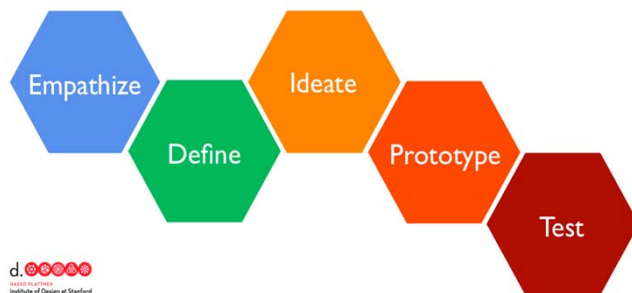
デザイン思考は新しい発想、問題発見・解決によるイノベーションを起こすためのひとつの発想法です。
 プロダクトデザインだけにとどまらず、研究やサービス開発、プロジェクトマネジメントにも応用ができるアイデアです。Stanford大学・d.schoolのdは、このdesign thinkingのdです。



〈26/Oct(sat) 10:00-15:00@すすかけ台〉



デザイン思考を構成する、下図5 steps ;
 Empathize, Define, Ideate, Prototype, Test ; を
 1日で一通り体験し、「デザイン思考」のコンセプトの理解を目指します。従来の知識の積み重ねではなく、先入観に縛られないアイデア出し、プロトタイプによる顧客に潜在するニーズの発掘を通して、イノベーションを生み出すコンセプトを体験します。
 5時間の集中ワークショップです。



Facilitator: 柏野尊徳 (かしの たかのり)

デザイン思考研究所 代表

1984年生 岡山県出身。岡山大学非常勤講師。スタンフォード大学デザイン思考教材や関連資料は公開6ヶ月でダウンロード5万件。岡山大学大学院で3年間教鞭をとった後、慶応義塾大学SFCにてイノベーション教育の研究と実践に専念。デザイン思考を活用したワークショップ開催や企業向けの教育プログラム開発を行う。

【Workshop】未来洞察ワークショップ（10年後の社会をデザインする：「アシスト機器のある生活2025」）



〈Workshop on Future Foresight (Designing 10 years later society with people from enterprises.) (Japanese and English)〉

3日間連続の集中ワークショップ

＜第1日：14/Nov(thu) 17:00-21:00@大岡山S422＞

＜第2日：15/Nov(fri) 17:00-21:00@大岡山S422＞

＜第3日：16/Nov(sat) 09:00-18:00@大岡山S422＞

日本の企業は差別化や技術革新にこだわるあまり、社会や市場に「不連続な変化をもたらすイノベーション」が苦手とされています。一方、未来は現在の延長線上にはないと言われながらも、そうした不連続な未来を洞察する方法論は十分ではありません。

博報堂イノベーションラボでは、この不連続性・不確実性をむしろ未来創造の源泉とする“スキヤニング”をベースとした方法論を確立し、新事業創造、中期経営計画、技術ロードマップ、人材育成など、さまざまな領域でイノベーションの支援を行っています。

本ワークショップでは、この方法論を実践的に活用しながら「2025年頃のアシスト機器のある生活」を不連続なシナリオとして描きだすことをテーマに開催されます。ワークショップは、協力企業の方より、アシスト機器の動向について情報提供、及び、議論へのサポートも受けながら、皆さんの議論を進行していただきます。

Facilitators:

栗田恵吾氏（博報堂イノベーションラボ）

(Keigo Awata, GM, Hakuhodo Inc.)

博報堂においてマーケティングプランナーとして勤務後、未来洞察やデザイン思考によるイノベーションコンサルティング組織イノベーションラボを創設。VALDES今田研究室非常勤講師。

栗林敦子氏（リコー経済社会研究所）

(Atsuko Kuribayashi, Richo Institute of Sustainability and Business)

ニッセイ基礎研究所を経て現職。慶応大学総合政策学部非常勤講師兼務、専門は、ライフスタイル論。VALDES今田研究室OG。

11月下旬からスタート予定！！

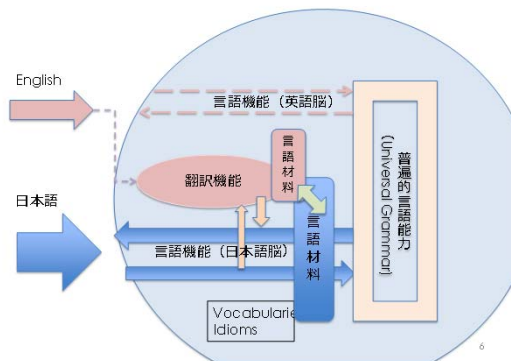
- 翻訳ではなく、英語で聞き取り英語で発語する新たなプロトコルを生成することにより、議論できるレベルのコミュニケーション能力が可能となります。
- Internetによるself learning、face-to faceのWorkshopそして、Skypeを使ったnative speakersとの会話を組み合わせ、listening/shadowing/quick response/reproduction等のトレーニング、スピーチコンテストなど、多彩な方法とオリジナル・コンテンツを用いて、英語脳の構築を目指します。
- 海外の大学に留学して講義を理解し、学生・教員とのディスカッションが行える実践的な英会話力の養成を目的としています。
- 参加者の募集は、10月中旬を予定しています。希望者は、早急にAGL事務室まで、ご連絡ください。

Staff: 三木茂先生

高木正明、浅野良彦、小泉純、Robert Jameson、Aaron Randall、Christian Mosen、蒲原順子、安藤真理子、三木由美、谷口諭



言語材料と言語機能（英語脳）の概念図





Academy for
Global
Leadership

来期 2014年前期道場 「一押し」 MENUの予告

- スタンフォード大学で教鞭をとるSteve Blank氏によるアントレプレナー、新規事業開発者、研究開発者のための教育プログラム「Lean Launchpad」を凝縮し、短期間で学べるようにしたワークショップ。
- このワークショップでは、各受講者が持ち込んだビジネスアイデアを中心に、「ビジネスモデルキャンバス」「ピボット」などの手法も使いながら、ステークホルダーへのインタビューを行い、事業の価値のアピールを、頭と体で学ぶ方法(プロジェクトメソッド)をとります。
- オリエンテーションを含め全6回を予定しています。



2014年前期開催

ファシリテーター；

飯野将人 (いの・まさと)

大手金融機関、米系コングロマリットといった大企業勤務の後、日米複数のスタートアップの経営に参画。その後2003年から2012年まで国内VCにてベンチャー投資に取り組む。2012年4月より西海岸発のハイテクベンチャー、ナント・モバイル取締役副社長に就任。傍ら個人的な活動として「顧客開発モデル」を中心とした講演、レクチャーを精力的に行っている。東京大学法学部卒。米国ハーバード大学経営大学院修了。訳書に『クリーンテック革命』（ファーストプレス）、「顧客開発モデルのトリセツ」がある。

堤 孝志 (つつみ・たかし)

総合商社、シリコンバレーのVCを経て、2003年から国内のVCに勤務。日米・アジアにて幅広くベンチャー投資活動を行う。その傍ら、スティーブ・ブランク氏とは純粋個人的な興味から渡りをつけ、その著作である「The Four Steps to The Epiphany」を共訳し「アントレプレナーの教科書」として翔泳社から出版したことをきっかけに、個人的な活動として「顧客開発モデル」を中心とした講演、レクチャーを精力的に行っている。東京理科大学工学部卒。McGill大学経営大学院修了。その他訳書に『クリーンテック革命』（ファーストプレス）、「顧客開発モデルのトリセツ」がある。





If you have any questions, please feel free to contact;

Prof. Keisuke Yamada

Academy for Global Leadership(AGL)

Tokyo Institute of Technology

(URL: <http://www.agl.titech.ac.jp/>)

email: yamada.k.be@m.titech.ac.jp

tel: (office) 03-5734-2323 / (mobile) 080-3258-8711

facebook: <http://www.facebook.com/keisuke.yamada.5203>